

ぶらりわが街宮沢界限

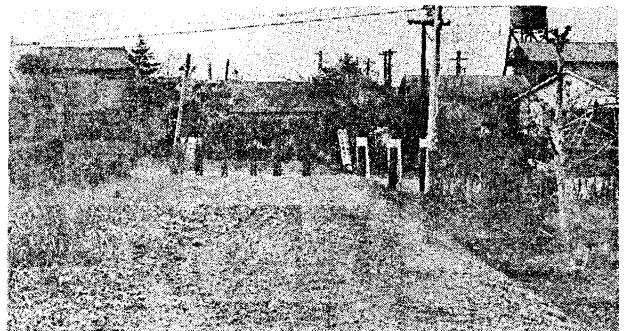
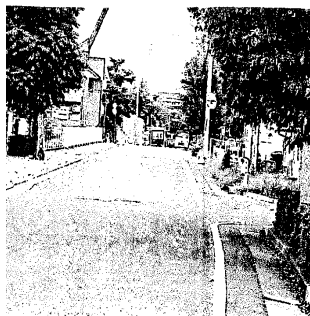
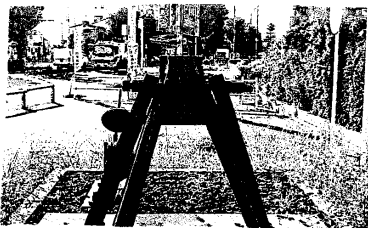
⑩ 「五鉄」五日市鉄道 — IV — 遺構を歩く (3)

(大神→武蔵田中→南拝島→拝島)

- ⑦ 大神～武蔵田中―「大神」からは、以前は、線路跡は平地のほ一ぼ直線の農道であったが、現在は整備され舗装道路(五鉄通り)です。「武蔵田中」は新奥多摩街道(都道211号線)に交わる、モニュメントがある地点にありました。この区間は「五鉄」では、一番短くおよそ460m。「武蔵田中」からは、多摩川に向かい田中町住宅・拝島橋・拝島高校南側付近までの、支線の砂利線が延びていました。*「⑦多摩川―IV―砂利採取(二つの砂利線)」に記載
- ⑧ 武蔵田中～南拝島―「武蔵田中」から西へ、1.1kmの直線で、現在は、新奥多摩街道と堂万上交差点から拝島地区は国道16号線になつています。「南拝島」は、JA(農協)拝島支店の道路反対側にありました。この駅の特徴に観光駅の一面があり、正月の拝島大師のダルマ市や、行楽シーズンには、この駅から拝島の渡しを利用し、(*拝島橋は、昭和30年(1955)3月開通で当時はまだ無かつた)滝山丘陵方面にハイキングの害が見られました。
- ⑨ 南拝島～拝島―「五鉄通り」は、拝島農協前交差点から少し先で、車止めある地点から国道16号線から離れ北に向かい、富士見坂自治会館前を過ぎると、周囲より一段高くなっておりいかにも線路跡という感じです。さらに縄文遺跡のある林の上公園前を過ぎると、すぐに緑街道を渡り、拝島第三小学校の東門前を進むと、拝島東自転車駐車場の中に入り、「江戸街道」に出ますが、その先は、「拝島停車通り」の東側を通過して「拝島」へ、だが線路跡は訪ねることは出来ません。「拝島」は、青梅鉄道の開業時の明治27年(1889)11月19日に開業。開業時には、青梅・小作・羽村・福生・拝島の5駅で、立川(甲武鉄道)まで乗り入れをした。当時は「一つの村に一つの駅」ということから、九つの村で組合村をつくっていた昭島は、最も西の「拝島」に設置された。その後、大正14年(1925)4月21日五日市鉄道開業(拝島～武蔵五日市間)。昭和5年(1930)7月13日五日市鉄道立川延伸(拝島～立川間「五鉄」)。昭和6年(1931)12月10日八高南線開通(八王子～東飯能間)。昭和15年(1940)陸軍多摩飛行場(今の横田基地)への軍用引込線開通、現在も使用されている。戦後は、昭和43年(1968)5月15日西武鉄道拝島線開通。最近では、平成19年(2007)8月23日拝島駅自由通路一部供用開始等。「拝島」は、交通・運輸の要所として発展しました。
- 江戸街道(都市計画道路342号線)―現在のJR青梅線の南側沿いで、昭島の中央を東西に結ぶ道路です。この道は、江戸幕府が開かれた以降で、当時の昭島には、南北を結ぶ道は多くありましたが、東西を結ぶ道は、村々の中心沿いの奥多摩街道と、この道くらいで、江戸に向かう道ということで「江戸道」と呼ばれていた。中心から離れた雑木林の中をはしるこの道は、バイパスのような役割をしていたのでしょうか。「江戸街道」の名称は、市制25周年(昭和54年(1979))記念事業として募集して付いた愛称です。

記

防犯宮沢支部会計 西山 禎一



拝島駅構内の電柱や高架水槽をま近に見ながら、路盤は正面の柵のところで切れて終わる。